

第 116 回・日商簿記検定試験 2 級 第 1 問 仕訳問題類題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	別段預金	受取手形
売掛金	売買目的有価証券	前払金	仮払金
立替金	備品	車両	支払手形
買掛金	未払金	仮受金	社債
利益準備金	別途積立金	繰越利益剰余金	車両減価償却累計額
本店	本店より仕入	支店向け売上	相模支店
伊豆支店	江戸支店	減価償却費	広告宣伝費
消耗品	支払利息	有価証券売却損	受取手数料
受取利息	有価証券売却益	損益	

1. 決算に際し、営業用の車両（取得原価 4,000,000 円、車両減価償却累計額 2,000,000 円、間接法で記帳）に対し、生産高比例法によって減価償却を行った。この車両の残存価額は取得原価の 10%、見積走行可能距離は 30 万キロであり、当期の実際走行距離は 3 万キロであった。
2. 平成 20 年 6 月 12 日に、売買目的で保有している取得価額 480,000 円、額面総額 500,000 円の国債を売却し、売買手数料 3,000 円を控除した金額 490,000 円が当座預金口座に振り込まれた。ただし、振り込まれた金額には端数利息が含まれている。この国債の利率は年 6% であり、利払日は毎年 3 月末日と 9 月末日である。なお、端数利息は 1 年を 365 日として日割りで計算する。
3. 板部岡商事株式会社は相模支店、伊豆支店、江戸支店の 3 つの支店を有しており、本店集中計算制度により会計処理を行っている。このような場合、伊豆支店が相模支店の広告宣伝費 100,000 円を現金で支払った取引について、本店で行われる仕訳を示しなさい。
4. 株式会社成田商会は、当期の決算を行った結果、6,000,000 円の損失を計上した。
5. 決算に際し、銀行の当座預金口座の残高と、当社の当座預金勘定残高の確認をしたところ、30,000 円の差額が生じていた。原因を調査したところ、未払となっていた消耗品代金支払いのために振り出した同額の小切手が手元に残っていることが判明したので、この修正のための会計処理を行った。